

主力の部品加工にとどまら
ない、開発・提案型メーカー
への転換に本腰を入れている。
その一環として、県内外
の4社でつくる技術研究組合
(META)に参画。今秋、
組合で開発を進める超小型電
気自動車（EV）の試作車が
完成する予定だ。製品の設計
段階から関わることに意義が
あるとし、「開発能力を持つ
た企業としての土台にした
い」と期待を込める。

ガソリン車向けの足回り部
品「ナックルアーム」や、変
速機に組み込むシャフトなど
を製造。売上高ベースで自動
車関連をやや上回る建機部品
は、油圧機器などを手がけて
いる。2024年3月期の売上
高（単体）は190億円を
見込む。

超小型EVの組合に参画

開発型企業への転換 本腰

案だった」と振り返る。

超小型EV開発では、主に
サスペンション機構を担当す
る。部品設計から加工、組み
立て、機能保証まで一貫して
担い、他社が製造した車体と
組み合わせた結果のフィード
バックなども行ってきた。「開
発の一連の流れを経験できた
ことが大きい」と受け止める。

社長
栗田 有樹さん



この人 この戦略

「EVシフト」への対
応も重要なテーマになった。
EV化では搭載される部品点
数の減少や、車体の一層の軽
量化が見込まれる。これらを
踏まえ19年、EVの車載モー
ターの軸などとしての採用を
目指し、軸の内部を中空構造
にして軽くしたシャフトの開
発を始めた。

「シャフト開発を契機に情報
発信を強化。EV開発コンサ
ルティング企業の目に留ま
り、超小型EVの提案を受け、
昨年10月に組合に加わった。
「自社開発力の強化と、EV
化への対応の両方につながる
。願ったりかなったりの提
案だった」と振り返る。

都筑製作所（坂城町）

1985（昭和60）年に入
社。管理部門が長く、15年に
社長に就任した。同年、自社
の将来の姿や目標を「202
5 VISION（ビジョ
ン）」としてまとめた。ロボ
ットや航空機といった新分野
の開拓などを掲げた。

完成車メーカーや大手重機
メーカーとの取引を重ね、「高
い加工能力を持った企業」と
する。

仕事だけでなく、開発ができ
る企業になることが重要」と
する。

ビジョンの実現に向けて、
トマトの収穫ロボットなどの
開発に着手。市場投入を目指
している。

自動車関連業界で近年急速